

井戸端 通信

Vol.12

発行 平成12年3月13日

発行所 〒930-0096
富山市舟橋北町7-1
富山県民生涯学習カレッジ内
自遊塾倶楽部広報部

フィナーレを飾る「ボジョレ・ヌーヴォー」を楽しむ夜会

ボジョレ・ヌーヴォー解禁日を待つて世界中の至る所でワインパーティーが催されるなか、「楽しくオシャレにワインの世界」を体験してもらおうと、自遊塾倶楽部が昨年十月十九日に開催した「ボジョレ・ヌーヴォーを楽しむ夜会」には三十二名が参加し、講座周の垣根を超えて交流を深めました。

この夜会を企画した牧野県民教授のあいさつでオープニング。ところで、牧野県民教授と言えば、テレビ番組収録中、自ら製作したオリジナル雑貨を髪に毛に引っかけたシーンが年末の某テレビ局全国ネットの「NG特集」でオン・エアされ、お茶の間の笑いを独占した人物であること、承知の方も多しはず。(ご本人にとっては、非常に恥ずかしい思いをしたかもしれませんが、自遊塾を全国的にPRした功労者です)

その後、室県民教授のワイン講座、テーブル交流と続き、今年度のフィナーレを飾るのにふさわしいイベントとなりました。それでは、参加者の声をお聞きください。



樽のコルクを抜くのも一苦労

「ボジョレ・ヌーヴォー」を楽しむ夜会に参加して

「名峰剱岳」塾生 久世 重夫

ワインを飲むことはいいことではないので、心が踊りつつも少し緊張した思いで会場に着いた。室県民教授の手によって樽が開けられ、その樽から直に赤いワインがグラスに注がれる。グラス越しに見える魅力的な赤色や複雑な絡み合った甘さと酸味によって、熟爛党の私は違ったジャンルに迷い込んだ感じがした。

ワインとは何とも不思議な飲み物であることが、他の参加者の話からもわかる。ブドウの採れる産地、気候の変化、発酵するときの条件で酸味、苦み、甘み、その他の味の変化が生ずること。また、ワインはグラスに少し注ぎ、スイングしながら少し口に含み、その都度味わうという。初めて飲む私には、その微妙な変化はわからないが、ワインにマッチした肴(料理)が会場の雰囲気を感じ上げ、いっそうグラスを重ねさせた。

初めてのボジョレ・ヌーヴォー

「創造的問題解決」塾生 小笹 佳司

ワインのことは全く「と素人」な私。室県民教授の説明を聞き、「ははあ〜ん」と思いながら飲んだワイン。わかった気分になつたりもしたが、やっぱりわからない。奥が深い飲み物だとつくづく思い知らされた。でも参加して本当によかったと思つた。正しいワインの飲み方がわかったし、何よりも参加者の皆さんと楽しいひとときを過ごせたからである。

ワインを飲む機会があれば、グラスを手に取り色を見て、テーブルにグラスを戻し、揺さぶって香りを嗅ぎ、少量のワインを口

に含み、ワインの感想を「かっこよく」述べてみたいものである。



「わかりやすい文章の書き方」を受講して

村田 まゆ美

会社で書類を作成する時、友人に手紙を書く時など、「相手に自分の思っている事をわかりやすく、簡潔に正しく伝えるにはどうすればよいのか?」と思い悩んでいた時、この講座を知り、参加する事にしました。

参加してみると、下は二十八歳から上は七十二歳まで幅広い年齢層の受講生と経験豊かな山崎先生。講座は和やかな雰囲気になって進んでいます。

講座の内容は、毎月題材を頂き、講座で披露し、先生が添削し、文章作成のポイントを教えてもらっています。

いろいろな方の文章は、自分では経験できない世界をのぞかせてもらって、これからの私の人生に大変役に立つと思つています。



まもなく塾生募集開始！ 新企画がゾクゾク登場

来年度初めてお目見えする講座の一部をご紹介します。
受講申込講座を決定する際の参考にしてください。

あなたもトルコ生活を 疑似体験できる？

県民教授候補者 中川 庄司

この講座では、単なるツアー旅行では
つい見落としがちなナマの生活体験が、
元気を与えてくれます。また、日本語ボ
ランティアに活躍する二十〜六十代の人々
の生きざまに、それぞれの生き生き人生
を垣間見ることが出来ます。

講座内容の一例を挙げればこのように
なりますが、詳細は講座でのお楽しみ。
○ 豚と炊きたてのご飯の二オイはキラ
イ、お茶大好き人間、公式の席での酒
席なし、ゆっくりリズム、時間厳守は二
力手、右手は聖なるもので左手は不浄
なもの、ウンコは左手で拭き、すく
水で濯ぐなど。

○ 日本語ボランティアとしての三百日
間(単身生活)を振り返り、トルコ点描(二
百枚のスケッチ)をしながらか、熟年一
人旅(約三千キロ)の貧乏旅行(パッ
ク・バックカー)を敢行。自然界の美し
さに感動し、日本の日常生活では味わ
えないワクワクした体験(旅行)が、
B-1 エンドルフィンを分泌して、若々
しさと楽しさをゲットさせてくれる。

○ トルコ国立エルジエス大学での講師
経験を踏まえながら、心豊かに余生を
楽しみ、心を癒す。語学と歴史学習を
終生のテーマとして追い求めていき
たい。「生涯学習こそ、わが命！」これ
こそまさに、長寿の秘訣である。特に、

外国語の学習は、自立神経のバランスを
保ち、百四十億の脳皮質の脳細胞を活
性化し、老化防止につながって行くとい
われている。

土人形のぬくもりに触れ、 自分でも作ってみよう

県民教授候補者 古川 圭子

江戸時代に始まった「富山土人形」は、
明治・大正期に全盛を極め、数多くの職
人の手によって「天神様」「内裏雛」「恵
比寿大黒」などの土人形が製作されてき
ました。現在のような衣装人形など望み
得なかった庶民は、身近な土で作った土
雛に、子供の成長や厄除けの願いや祈り
を託したものです。しかし、戦後、豊か
になり、生活習慣の変化や、八百万の神々
にささげた祈りの心の風化とともに土人
形も生活の中から姿を消していきました。

人形職人も職を余儀なくされ、現在で
は、観光みやげとしてきれいに作られた
ものもあります
が、かつての人
形の土臭い生活
の匂いなど、ど
こにも見いだせ
なくなっており
ます。



当講座では、
古い土人形の魅
力を再発見する
ために写真や収
集した人形を見

ていただきます。そして実際に、粘土に
触れて、土人形を製作します。どうぞ、
たくさんの方々に、当講座を受講してい
ただき、製作技法を知るとともに、でき
あがった土人形や土鈴を自宅に飾ってみ
て下さい！

地域づくりをみんな で地域づくり人づくり学級

県民教授候補者 遠藤 聡

「塾ながやけどみーんな講師」

六年前、「富山県コロンブス計画」の
本「みやあらくもんが富山を創る」で
「塾じゃないからみんなが講師」という
文章を書かせてもらったことがありま
す。知識や技などを先生が高みから教える、
従来の「一方通行型の教育」では、豊か
な人間性や楽しい地域はできないこと
を訴えたかったのです。

この「自遊塾」はいわゆる「学習塾」
とは違うので、ワークシヨップなどを活
用して「塾だけとみんが講師」を目指
したいと思えます。各人の個性を伸ばし
ながら、教え合い(相互貢献)型のネッ
トワークを編み出すことにより「楽し
い地域」をつくり出していきたいと考
えているわけです。

自分の地域を楽しくしたいと思ってい
る人、知識や技の充電に飽き足らず「放
電」をしたいと思っている人などに受講
をお薦めします。
できればレレー式でも何回か重ねて、
人材に厚みと広がりがあれば「楽しい
県」づくりにつながっていくのではと期
待をかけています。

ふるさと万華鏡

「詩と写真やスケッチで
故郷をやまを表現しよう」

県民教授候補者 岡本 達也

この講座はみなさんと話し合いながら、
次のように進めていきたいと思えます。
*いっしょに県内各地のふるさとにふれて
みましょう。
初夏の「砺波野」や坂のまち「八尾」、中
島開門などの「富岩運河」をみんなでお訪
れします。

*思い思いに写真を撮ったり、スケッチし
たりしてください。
自分の感じたことを心象として、写真
やスケッチに書きとめておきます。そして、
感じたことを詩として、十五行程度で作
成してみましょう。詩は人によっていろ
んな受け取り方があります。

*詩と写真、スケッチでみなさんで発表会
をしましょう。
詩と写真、スケッチを見ながら、こうい
う感じ方もあるのだなとお互い鑑賞しま
しょう。
併せて、発表・展示会もいっしょにしま
しょう。

秋人大地になつ

岡本達也 作

聴こえるかい 僕らの声
太陽に焼かれたような
感情の楽園が見えるか 君
たちには
子供の頃に慕っている
この安らぎは何だろうか
幸福と風と雲に満ちた日へ
ああ 大地よ
ありがと



特許入門講座—発明家の皆さん
夢の実現に向けてステップアップ—

県民教授候補者 吉田 達弘

「あの吉田氏が自遊塾講座を
開くことになった訳」

はじめまして、「特許入門講座」を開講する予定の吉田と申します。

発明の保護を多面的に強化するプロパテントの時代、この時流に乗ってこういうわけでもないのかもしれませんが、画期的な特許を核として事業展開し発展しているベンチャー企業が他県にはあると聞いています。

そもそも、私がこの講座を開こうと思いついたのも、特許教育の裾野を広げ、この富山県にももっとベンチャービジネスを育成しなければとの使命感に燃え…（いかん！）どうもウソっぽくていけない。書き直し、書き直し。）

実は、私は民間企業で社外発明の提案事務局を担当していたことがあります。お寄せ頂いたご提案を見て思うのは、発明家の皆さんは、ずいぶん損をしているといえます。

●○○さんは、出願する前に提案してきたぞ。下手すると権利化できなくなるのに。
●□□さんは、もう何年も前に他の人が権利化した発明と同じ発明を出願してしまっただけ。

●特許は書面審査なのに、△△さんは、借金してまで試作品を作ろうとしている。
●××さんの特許は、ここを変えればすぐに逃げることができる。なんでこんな不要な限定をしようとしたのさうかつなんだ。

そこで、街の発明家の皆さんのお役に立てるかもしれないと思いついてこの講座を開くことにしました。（まあ、この程度にしておくか。）

という訳で、発明家の皆さん、企業の研

究開発ご担当の皆さん、基本的な特許の知識を持つことが結局は夢実現の近道になります。いっしょに特許について学びませんか。

シユガーアート
砂糖のお花でデコレーション

県民教授候補者 三辺 咲子



こ～んなケーキも作れます

シユガークラフト、シユガーアートは砂糖で作るペーストやクリームを使い、ケーキなどをデコレーションするものです。発祥地のイギリスでは、ウエディングケーキや記念日のケーキだけではなく、一般家庭でも気軽に作られていたり、美しい色や創造性から、お菓子という枠を超えてアートとしても親しまれています。

お菓子作りが好きで始めたシユガーデコレーション。私もこれまでに親しい人達に贈る機会がありました。その人のことをイメージしながら、デザインを考えたお花を作ったりするのはとても楽しい時間です。出来上がったケーキは、珍しさも手伝い大変喜んでいただきました。

花や細かな細工の技術は、経験を重ねた方が美しく表情豊かに仕上げることができそうですが、大切なのは作ることを楽しむ気持ち。小さな頃に読んだお菓子の国のお話を思い出させてくれるような優しいアートです。あなたのセンスやアイデアで世界に一つしかないオリジナルケーキを作ってみませんか？

マイ・ポエム（綴る&詠む）

県民教授候補者 尾山 敦子

「じゅぽけいじゅたぽ」

はじめまして。このたび「マイ・ポエム（綴る&詠む）」を開講致します尾山敦子と申します。私は小さい頃より言葉の持つ魅力に惹かれ、KNBAアナウンサーを経て、現在は日本話し方センター北陸支部代表として皆様に言葉の大切さをお伝えしております。

男性は「もの」で語り、女性は「こと」で語ると言います。「もの」とは事柄のこと、「こと」とは感じ方のことです。ハードとソフトとも言えます。二十一世紀はソフトの時代と言われています。その時代を生きて行くには、感性と直感力に磨きをかけて行かなければなりません。

そのツールとして今、現代詩が熱い注目を浴びています。日本語は世界で一番美しく情感あふれた言葉です。誰もが生まれつき持っている心の言葉をそと取り出して、素直に綴ってみましょう。そしてあなたの声で自由に読んでみましょう。日頃のストレスや不安が吹き飛んで、信じられないような楽しさで一杯になる事でしょう。それは本当のあなたのまぶしい再会でもあるのです。年齢、職業、性別は問いません。今のままのあなたと出逢える事を楽しみにして、お待ちしております。

好奇心塾
—動きが心を—の巻

県民教授候補者 庄司 俊雄

私は岩波ホール総支配人の高野悦子さんのファンで、彼女の「私が見たい映画を皆さんに見てもらっているよ」の言葉を、いつも心に思っています。「好奇心塾」という変な名前の講座は、「自遊塾の中にこんな講座があれば」と思っていたものを企画したものです。

原点は私たちの少年少女時代です。体も心も成長する時に、いろんなものに興味を持ち吸収します。大人になった今、自分の一生の糧を持つようとしていらっしゃる方にとって、また、これまで「興味の食わず嫌い」をし



平成11年度倶楽部主催「そばうち体験」より

ていた方にとって、自分のもっている好奇心をもっともつと膨らませ、いろいろな興味を探し出す能力と、自分の肌に合ったものを見極める能力が必要です。

それには、これまでのタテ社会の頭ではなく、「ヨコ社会の頭を持ちましょう。そして好奇心で見つけ出したものを実現させる努力をしてみましょう。」





南半球は真夏のクリスマス

外国の文化に対して全く興味のなかつた私が、四十五歳位から急にラジオ英語を聞き始め、それでは行ってみようかと観光にそれでは住んでみようかとホームステイ、入ってみようと語学学校。教室では孫ほどの少年少女と机を並べる小気味よき、語学力不足は人生経験が力パバーしてくれぬことを発見。人種、生活、文化の違いの面白さもさることながら、ホームステイで出会った七十歳の日本人男性や留学中の日本の若者たちの生感、移民した日本人の生活など、日本人との出会いがまた意義深い。

留学を子供のものにしておくのはもったいない。金の価値を知っているから無駄にはしない。見るもの聞くもの全てに興味を持つ。が、どんなに頑張っても、外交官になれるわけないからゆくり楽しめる。「もっと多くの人と話したい」と続けている私の旅の経験が、あなたの旅やお子さんの留学の参考になればと思います。

そして、何よりも新しい出会いのためこの講座を企画しました。「お茶しましよっ」の軽い気持ちで参加ください。

「篠笛の手ほどき」を受講して

石川 邦生

篠笛に功罪があるとすれば、その音色は人に身震いするほどの感動を与え（功）、一方で、私も吹いてみたいと入門の道へと歩ませること（罪な面？）であろう。これにはまってしまったのが我々塾生20余名です。

篠笛を学んでまだ半年足らずの我々塾生に発表の機会が与えられ、去る10月24日、新湊市中央文化会館で開催された「まなびピアとやま'99 in しんみなと一生涯学習フェスティバル」に出演しました。泉貞夫県民教授と先輩塾生にリードされながら、「夏の思い出」「こきりこ」など6曲を合奏。終わった後、レストランで反省会を持ち団欒しました。うまく吹けずに悩んでいたところを、教授から「上達度は個人差があり、継続が大事」と激励され、また仲間の支えもあってどうにか落ちこぼれずにすみました。本講座はまだ終了しておらず、4月9日富山市中央通りでの「春のときめき講座」街角パフォーマンスに向け、塾生一同頑張っています。

篠笛が我が人生の友となり、いつの日か人に感動を与えられたらと、出勤途中やお昼休みに車を農道に止めて練習に励んでいます。夢中で吹いているといやなことを忘れ、気分転換ができるので、ストレスの解消に役立っており、それが継続性をもたらしてくれます。泉教授の「篠笛は技術で吹くのではなく、感情表現に重点をおいている」「気持ちをしっかり入れないといい音色は出ない」との熱い言葉を思い出しつつ、指を動かす毎日です。



平成11年度「春のときめき講座」より

平成12年度「春のときめき講座」運営スタッフ大募集

1月15日（土）及び2月5日（土）に「春のときめき講座」実行委員会が行われました。

飛び入りでの参加もOKです。お気軽にのぞいて下さい。

春のときめき講座実行委員会日程等

最終全体打ち合わせ

3月25日（土）17:00~19:00 エルフ富山3F マルチホール

当日打ち合わせ

4月9日（日）10:00 エルフ富山3F マルチホール

なお「春のときめき講座」の詳細については、同封のチラシをご覧ください。

平成12年度 自遊塾倶楽部会議（第1回目）

5月13日（土）午後2時から

富山県教育文化会館 403号室

6月以降の定例会は毎月原則第2土曜日

午後5時から行います。

問い合わせ先

県民カレッジ自遊塾事務担当 福澤まで

〒930-0096 富山市舟橋北町7-1

TEL 076-441-8635（内線223）

FAX 076-441-6157

編集後記

とうとう今年度最後の井戸端通信となりました。振り返ってみますと、井戸端通信はみなさんのアンケートや原稿で成り立っているといっても過言ではありません。しかし、スペースの都合で掲載することが出来なかったり、お名前をまちがえて掲載したこともあったりして、本当に申し訳ありませんでした。皆さんからのご感想を拝見しておりますと、自遊塾へ寄せる熱い想いが伝わってきて、ずいぶん元気づけられました。

最後になりましたが、たくさんの方々のご協力により無事今年度の発行を終えることができ、本当にありがとうございました。これからも皆さんの手でつくる井戸端通信をどうぞよろしくお願い致します。

自遊塾倶楽部広報部一同